

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年8月2日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.137】

JR総連は「襲撃事件は革マル活動家への内ゲバ」と認めよ！

本情報「No.131」以降、JR総連は「JR革マル派43名リスト裁判」の準備書面で、1999年12月まで国鉄・JR内に革マル派組織が存在し活動していたと自白したことを検証してきた。前号では、国労内にも組織が形成され、国鉄改革時に革マル派グループが国労から脱退し「真国労」を結成した経過も述べた。本号では、内ゲバ事件について復習したい。

「No.16～24」で検証した通り、1980年から1995年にかけて、国鉄・JRでは、過激派間の抗争である内ゲバ事件が18件（警察発表）発生し、7名の死者と多数の重傷者を出している。被害者はすべて動労、または真国労の出身で、JR発足後では、JR総連や東労組の役員や関係者ばかり。いずれも革マル派と敵対する中核派や革労協狭間派が犯行を自認し、襲撃された者を革マル派活動家と断定して、犯行声明を発表している。以下に、改めて、国鉄・JR関係の主要な内ゲバ事件を掲載する（西岡研介著「マンガローブ」p.145）。

発生日	被害者	役職名(当時)	犯行声明
1980年9月22日	小谷 昌幸(重傷)	動労中央本部教宣部長(後のJR総連副委員長)	革労協
1985年11月11日	高橋 由美子(重傷)	動労中央本部書記	中核派
1986年9月1日	前田 正明(死亡)	真国労大阪地本書記長(他8名重軽傷)	中核派
1987年2月23日	佐藤 政雄(重傷)	動労中央本部副委員長(後の東海労委員長)	中核派
1987年5月18日	細田 智(重傷)	東鉄組(現・東労組)拜島運転区支部委員長	中核派
1987年8月29日	嶋田 誠(重傷)	東鉄組(現・東労組)千葉支部副委員長	中核派
1987年10月30日	荒川 一夫(死亡)	東鉄組(現・東労組)田端分会組合員	革労協
1988年3月3日	松下 勝(死亡)	東鉄組(現・東労組)高崎地本委員長	中核派
1989年2月8日	加瀬 勝弘(死亡)	東鉄組(現・東労組)水戸地本組織部長	中核派
1989年12月2日	田中 豊徳(死亡)	JR総連総務部長	革労協
1991年5月1日	湯原 正宣(死亡)	東労組水戸地本組織部長	中核派
1993年8月27日	中村 辰夫(死亡)	貨物労組役員(他1名重傷)	革労協
1995年11月28日	一石 祐三(重傷)	東労組情宣部長	中核派

JR総連関係者は革マル派だったからこそ襲撃されたのではないのか！

これほど凄惨な内ゲバの歴史を抱えている労働組合はJR総連だけだ。そして、革マル派とJR総連・東労組は、奇妙にも「権力の謀略」「絶対に捕まることのない何者かによる犯行」など同じような見解を示し、今なお内ゲバであることを必死に否定している。しかし、今回、彼らが1999年12月までは国鉄・JR内に革マル派組織が存在し活動していたと自認したことから、いずれも1999年12月以前に発生したこれらの襲撃は、革マル派をターゲットにした敵対組織による内ゲバであることが証明されたと言ってよい。

2010年6月に開催された東労組第26回定期大会で、高崎地本の代議員は「他地本のある役員は『虐殺』を否定している」旨の不可解な怒りの発言をしたようだが、これは、上記の高崎地本の松下元委員長への内ゲバ事件を指しており、彼らは、未だに内ゲバを否定しているようだ。しかし、松下氏を含め、上記の犠牲者は革マル派メンバーだったからこそ襲撃されたのではないのか。JR総連・東労組は、自ら革マル派との密接な関係を認めた以上、潔く内ゲバの事実を認め、社会や一般組合員が納得できるよう説明すべきである。